▷大会講演・討論を聞いて（セッション報告）◁

特別セッションⅠ

北陸地方の地場産業の活性化

—地域から発信する 21 世紀の「ものづくり」の取り組み— (A 201～A 208)

上 山 明 彦*

本セッションのサブタイトル『地域から発信する 21 世紀の「ものづくり」の取り組み』は多少大げさすぎると思われるが、富山県、石川県、福井県の北陸三県における特徴あるプラスチック関連企業からの発表をお願いした。北陸地方では古くから繊維関連産業が盛んであり、特に福井では現在でも製品出荷額の第 2 位が繊維製品である。石川県では繊維に関連する特色ある化学素材メーカーもある。しかし、富山県では代表的なアルミの非鉄金属産業や化学産業が盛んとなっている。このような産業形態を背景にプラスチック産業の特徴も 3 県それぞれにおいて特徴がある。

最初の 3 件の発表はリサイクルや生分解性樹脂といったエコ材料を用いた製品への応用や実用化に関する内容で各企業の開発の取り組みが紹介されていた。このテーマに関して他の特別セッションにおいても取り扱われているが、地域における実用化に関する取り組みを中心とした内容であった。今後、この分野では各地でその地域に特有の取り組みが今後が盛んになってくるものと考えられる。後半は

プラスチック成形企業が取り組んでいる内容 2 件と高分子応用素材やプラスチック用レーザー加工装置の開発に関する発表 2 件であった。

今回の発表では産学官または産官の共同研究の発表が 3 件あった。地方公設試ではこれまでも共同研究を積極的に行き組み、技術の移転や実用化を推進しているが、国立大学の独法化に伴い今後増加していくと考えられる。開発力の乏しい地域の中小企業が積極的に公設試、大学の設備や開発した技術、特許を利用して新製品の開発、技術の蓄積、人材の育成に行き組み、企業のさらなる発展につなげていってほしい。また、実用的な技術発表や実学的な研究発表が多いプラスチック成形加工学会への積極的な参加により幅広い情報の収集や人のつながりを構築してほしいと希望する。

本セッションの企画に対して、発表企業にはかなりのご面倒をおかけする事になり、また、どのくらいの人数が参加していただけるのか当初からの心配であった。しかし、参加者も多く、質疑・討論も活発であり、関係者各位のご努力に心より敬意を表する次第である。

* Ueyama, Akihiko
福井県工業技術センター
福井市川合鷺塚町 61 字北稲田 10 (〒910-0102)

特別セッションⅡ

環境対応（生分解、CO₂ 排出削減、リサイクル・リユース）(B 101～B 108)

山 本 孝*

本セッションでは、生分解性プラスチックからリサイクルにいたるまで、プラスチックの環境対応技術全般に関連する研究発表が行われた。私たちの社会生活に定着しているプラスチック製品は、いまやその廃棄物の処理、リサイクルが大きな問題となっている。また、地球温暖化防止技術は、省エネ化、化石由来材料から植物資源材料への転換、リサイクル・リユースなど、プラスチック成形加工を含む産業構造のあらゆる部分に関わっている。

はじめの 4 件は環境負荷低減を担う生分解性プラスチックに関するもので、天然繊維の複合による物性向上を目指した内容であった。生分解性プラスチックは地球環境に優しい材料として注目されているが、耐熱性や機械的特性が用途拡大の課題とされ、天然繊維やクレイ等との複合による性能の改善が進められている。その成果として生分解性

プラスチックは、家電筐体や自動車部品など、ここ数年でかなり身近な素材となってきた。各発表もこれに沿ったもので、研究に用いられた天然繊維は、竹繊維、ケナフ繊維、シルクなどである。特に、シルク織物を研究対象とした発表には地域性を感じた。

後半の 4 件はリサイクルに関する発表であった。最初の 1 件はフィルムの製造工程におけるクローズド化リサイクル技術に関するもので、2 件目は廃家電プラスチックの再生処理工程に関する検討結果が示された。2001 年の『家電リサイクル法』により、廃家電プラスチックのリサイクルは重要な技術のひとつに位置づけられている。その他は PET ボトル再生材の乾燥に関わる発表が行われた。

2000 年の『循環型社会形成推進基本法』に加え、2002 年 12 月に『バイオテクノロジー戦略会議大綱』と『バイオマスニッポン総合戦略』が相次いで閣議決定されると、環境負荷低減・地球温暖化防止・資源循環型社会形成への取り組みがさらに活発になってきた。したがって、本セッ

* Yamamoto, Takashi
石川県工業試験場
金沢市鞍月 2-1 (〒920-8203)